

『輝く雪』のまち

ぬまた町

みんなの議会

2012年10月
第51号



祭は文化だ!

////////// 主な内容 //////////

- 第3回定例会・臨時会…………… P 2
- 議決された意見書…………… P 2
- 町民との懇話会
 - 自治振興協議会・共成老人会…………… P 3
- 町長・教育長への一般質問…………… P 4～7
- 議会の動き
 - 中央要望、議員セミナー…………… P 8
 - まちづくり特別委員会・視察…………… P 9
- みんなの広場…………… P 10
- あとがき…………… P 10



9月10日、沼田神社の秋祭り

平成24年 第3回定例会 9月14日

九月一四日平成二十四年の第三回定例会が開かれました。

上程された主な議案

◎二十三年度決算認定

平成二十三年度の一般会計及び水道事業会計の認定は、議員八名からなる決算審査特別委員会に付託しました。

委員長に津川議員・副委員長に久保議員を指名して、十月二十二日から二十五日までの予定で審査がおこなわれます。

◎一般会計補正予算

厚生病院の赤字補填に一億八千五百万円の支出につ

いては、議論の末、承認されました。

◎教育委員の同意

任期満了により、生沼篤司氏と小西克人氏が再任されました。

◎防災無線の更新工事契約

防衛施設周辺無線放送施設整備工事の請負契約が約四千万円となり、承認しました。



厚生病院の赤字補填についての議論

民間の事業に対する赤字補填の考え方を伺いたい。

赤字の経費の部分についてどのような説明を受けているのか。

赤字を減らすために厚生連にどのような要請をするのか。

厚生病院所在市町村で話し合いをして、監査権を要求してはどうか。

厚生連への赤字補填は十九年度からの契約によるものです。

経費の中等等については意見を言ったり、監査をする権利がありません。

特別交付金もきびしい状況ですので、総合的に考えていく時期にきていると思います。

監査権については、厚生連に事前質問してあり、回答を待っています。

沼田厚生病院赤字の推移

年度	町人口	一日平均患者数		赤字額
		外来	入院	
16年	4,124	119	48	0.2億円
17年	4,059	104	43	0.5億円
18年	3,962	96	40	1.0億円
19年	3,881	97	36	1.5億円
20年	3,786	100	30	1.9億円
21年	3,695	99	23	1.6億円
22年	3,618	97	23	1.6億円
23年	3,536	95	21	1.8億円

第4回臨時会 8月6日

スキー場の圧雪車を更新します。特殊な機械であることから1社特命随意契約を行い、2800万円で契約しました。

可決された意見書

地球温暖化対策税を地方にまわすための意見書

二酸化炭素吸収源として最も重要な機能を有するのは森林です。

しかし、地方では、木材価格の暴落や後継者不足で、森林が荒れています。

「地球温暖化のための税」の一定割合を森林面積に応じて配分する仕組みを作るように要望しました。

保険で良い歯科医療の実現を求める意見書

格差社会の中で、経済的理由によって歯科受診困難や治療中止・中断が増えています。

患者の窓口負担割合の軽減と、安全で普及している歯科医療技術を保険適用することなどを要望しました。

自治振興協議会との懇話会 八月十七日

出席者 自治振興協議会 六名
議会 九名

横山会長・杉本議長のあいさつの後、中村議運委員長を座長に懇話会を行いました。
直近一年間の議会活動の報告を担当委員長から行いました。

その後、郷古事務局長から自治振興協議会の抱えている問題点や活動の在り方などについて説明をうけました。「会の活動は成果の出づら
いものが多く、会そのものの存在感や認知度が低い。このままでは存続の意義を感じない」などの現状報告でした。

議会からは「防災組織としての一翼を担ってもらえないか」「地域からあがってくる要望・意見を議会と共有できないか」などの意見がありました。

また、議会への要望として、
○融雪補助成だけでなく、除雪機械への助成を
してほしい。
○倒壊の危険がある家屋が散見されるが、対処
してほしい。

○離農跡地の整理活用をしてほしい。
○昭和六十三年の水害の対策が出来ていない。
などの意見があり後日、担当部署に申し入れる一方、一般質問で町長に質問しました。

第1回懇話会を行いました



共成老人クラブとの懇話会 八月十七日

出席者 共成老人クラブ 十八名
議会 三名

畑地会長・杉本議長のあいさつの後、中村議運委員長を座長に懇話会を行いました。
直近一年間の議会活動の報告を出席議員から行いました。

議会への要望として、
○ドクターヘリの故障は人命にかかわるので、
全道で一機くらいは予備機を準備してほしい。
○病院を建替えたとしても、ベッドはどうしても残してほしい。(複数の意見)

○共成地域の老人は共成に集まることが多い。
○コミュニティベンチを設置してほしい。
などの意見があり後日、担当部署に申し入れました。

第2回懇話会を行いました



第1回・2回の懇話会を開会しました。これは地域・団体から要望があればいつでもどこへでも
出向いて、議会活動の報告と住民の要望・意見を聞く試みです。出席された方からは異口同音に「聞
いてよかった」「呼んでよかった」という賛辞が聞かれました。

ぜひあなたの町内会や所属団体でもご検討下さい。

町長への一般質問

問 消防組合の不正経理事件には、 厳正な対応をすべき

答 沼田町の不利益にならないように対応したい



高田 勲
議員

分かっている範囲での見通しを伺いたい。

問 本年四月に、本町が所属する深川地区消防組合で、三千三百万円もの使途不明金が発覚しました。この中には沼田町が負担した九百八十万円も含まれています。また、使途不明金を隠蔽するために、十年以上にわたり不正経理が順送りに繰り返されて来ました。組織をあげて行われた悪質な横領行為であり、住民の財産を剥奪した背徳行為であります。

仮に返還されなかった場合、消防組合を組織する一市五町で負担する案が出ているように聞いています。沼田消防の職団員や沼田町には、一切の非はありません。消防組合の人事権や任命権があるのは、組合管理者である深川市長です。深川市に負担して戴くのが妥当だと思うが町長はどのように考えているのか。

地域住民の関心事は、使途不明となった三千三百万円が返還されるのか、沼田町が拠出した九百八十万円が戻ってくるのかというところにあります。現在、

本事件に関しては四月に発覚して、六月に議会報告が一回あっただけです。事件の時効（八年）を過ぎている、支出に関する書類も処分されていることから、刑事事件としての立件は困難との報道もあります。しかし三千三百万円ものお金が無くなったのですから、消防組合は事件の全容を明



安心・安全を守る消防組合

らかにする責任があります。町長は、深川市と消防組合に、事細かな説明を求めべきです。



消防組合の不正経理問題に関して

は、発生以来何回かの説明がありました。消防本部で行っている調査では不十分であるとの判断から、組合議会の中に不正経理等調査特別委員会が設置されたところでです。

議員が質問された事項は、この特別委員会の中で調査検討されます。委員会の報告が出ていない段階ですので、仮定の上での答弁は出来ません。

町としては特別委員会の報告を待って、町の不利益にならないように厳正に対応して行きたいと考えています。

問 新たな観光開発に化石を利用しては

答 保存と活用のバランスを大切にしたい



鵜野 範之
議員

集客期間が短期間です。

一年を通じた集客力ある観光開発が必要と考えます。そこで、化石を利用できないか。

問 本町を代表する観光祭り、ほたる祭り、雪を利

用したまちづくりが有るが、

どのような観光開発を考えているのか。



化石については保護条例を持っている以上、保存と活用のバランスを大切にしたいと考えています。

新たな観光開発は具体的なところは無いが、農村風景なり農業を活用したものがないかと思

います。今後、検討していきたい。



子供たちに好評です

鵜野範之議員、そのほかの質問

危険な空家は町内に何件、対策は

答 市街地に二件、冬に向かって対策します

問 鹿対策に電牧柵の助成ができないか
答 対策委員会等と検討し対応したい



己内勝 議員

問 有害鳥獣対策について、行政報告の中で現状の取組について説明があったが、猫友会による駆除、くくりわなによる捕獲等、鹿の個体数は減っているが、被害が無くなっていない状況にあります。

は、沼田は豪雪地帯です。で、設置後の管理の問題、費用の問題があります。

有害鳥獣対策委員会、農業者による先進地の視察をし、農協、関係者の意見を聞き協議をして、個別の農業者がいいの、町全体で取り組むのか、検討を踏まえ対応したい。

近隣町村で取り組まれている電牧柵、囲い施設等の設置について沼田町としての考えがないのか、個々の農家が特定した作物を囲う設備ができないか、導入にどの位費用がかかるのか、又、設置に対して助成できないか町長に伺いたい。

設置費用については、簡易電気柵、恒久、フィールドフェンス、があり安価なものでは延長四十キロで二千八百万、恒久で七千二百万、耐用年数二十年の頑丈なもので一億六千八百万です。簡易なソーラータイプですと三段張り、四〇〇メートルで九万六千円です。セット価格で千二百メートルで二十二万円で九ヘクタール囲えます。

町、JAと制度化にむけた協議検討が必要ですので即答はできません。

問 公用車(消防バス)の業務に支障がないか
答 消防だけでなく全体での利用で導入した



誠原 議員

問 公用車の中の消防バスについて私達議会を含め、多くの団体がこのバスを利用しているが、まず利用状況を伺いたい。消防管理のバスは本来消防業務、あるいは緊急時の団員輸送に導入したと聞くと各団体、経費節減のために消防バスの業務外利用が多いのではないか、そのために消防業務に支障をきたしているのではないかと危惧しています。

この間に緊急時でこのバスを使った実績はありません。この消防マイクロバスの導入経過は、平成十八年七月に導入し、その経過として、消防業務に限定したものでなく他の業務でも利用して全体で使うと聞いております。

現状として消防以外の利用も多のですが、バス利用時は必ず代替車(ワゴン車)を用意するルールを定めています。

上手く利用しながら住民に心配のない体制を取っていきたくと考えます。

緊急時、災害時の対応は大丈夫なのか、長い時間の利用は制限すべきと考えますが町長の考えを伺いたい。

消防のマイクロバスの使用状況ですが、過去三年間では、平成二十二年、十六回平成二十三年、十八回、今年度八月末で十三回の利用です。



北竜町の電牧柵の状況



ソーラーパネル部



消防のマイクロバス

問 絵内勝己議員、そのほかの質問
答 補植、雪囲いで対応します



フェンス・電牧柵の設置について

二千メートルで二十五ヘクタール囲えます。助成については、

問 消防を建て替え、大型化しては

答 整備計画の検討項目に入れる



渡辺 敏昭
議員

問 消防の車庫は、あまりにも、せますぎる。

近年、消防車の入れ替えを進めてきたことは評価するが、それらは非常に大きい車両です。車両の出入りをスムーズにするために、入り口の柱を細く改修したぐらいです。それでも中の広さは変わらない。緊急出動で、隣り合わせの車両のドアを思いっきり、いつせいに開けることすらできません。

さらに出入り口が道路よりもかなり高いため、急な坂道になっている。だから冬には、車庫前アプローチの車両の点検や、緊急出動の後始末は大変なようので、たびたび氷の上ですべるらしい。しかも、歩道との壁は何もありません。

建て替えの財源は、おりしも「過疎債」が延長したので、五年の借用計画で、十二年の返済期限や、国の耐震対策の補助金などを活用しながら、早急に消防の建て替えをすべきだと思います。

ちなみに、秩父別町は来年、消防施設の建て替え基本計画に入ります。



消防署の耐震化の工事は、近年のうちにもやります。

さらに消防団長からも多くの問題を聞いています。

私も必要だと思うのは、「防災の備蓄」、「備蓄の備品庫」、「消防の訓練する場



確かに車庫は、せますぎかも

6月26日 消防署を視察

所」です。

現在、沼田町の整備計画『土地利用マスター・プラン』を検討しているが、これらも項目に入りたい。それを踏まえての大型化への建て替えや、整備は財政状況を見ながら解決していきたい。

問 倒壊の恐れのある空き家対策は

答 危険が及ばない策と調査を行う



久保 元宏
議員

問

町長は危険な空き家対策は「条例を改正しても全ての問題は解決しない」と言うが、町長の条例に対する政治思想が間違っ

ているのではないか。

確かに町長が言うように、条例は何でもできる魔法のツエではない。しかし、行政ができないこと、議員がなかなか腰を上げないことを後押しするツエが条例だ。仮に条例が無くても対策をしないのでは、「条例は役に立たない」は言い訳にもならない。

緊急の課題は、まさに町長室から見える倒壊の恐れのある空き家だ。二階の窓ガラスは傾いて落ちそう、この下に子供がいたらどうなるか？また裏



窓枠から外れている

窓ガラスは後日ついに落下した

過疎債(かそさい)

1960年代の高度経済成長で急激に起こった都会への人口流出の対策に1970年に国が制定。返済の70%を国の補助金で埋められるのも利点。

側は崩壊して自由に中に入れる。

確かに町の財産で無償での解体を無条件で行うわけにはいかない。だからこそ、「道路に倒壊」、「人身事故」、「隣の家が被害」などの危険を条件に付けるのが条例だ。そして条件にあった家を土地付きで町が寄付してもらい、解体してはどうか。



役場前の空き家は平成十七年から持ち主と話し合いをしてい

るが、現在は居場所が分からない。だから本人の了解なしに壊せない、危険が及ばない方策や、中に入らない策を講じたい。

また家を壊すだけでは人口が流出するので、解体後に新築する条件を付けて、解体と新築に、それぞれ何十万円かずつ町から補助金を出すことを検討したい。

さらにこの冬の前に町内の家屋や、屋根などの危険や老朽化の調査を再度行う。

久保元宏議員、そのほかの質問

問 老人ホーム職員の確保の対策は

答 現状、正職員の充足に問題は無い



むかわ町農業センター



町と農協の職員のスクラムにより、農業振興計画の企画・調整および推進を図る。農業センターには、町農政課、農業委員会、JA農業振興部の事務所がある。

- ▶総事業費 2億5千万円(補助金1億円)
- ▶補助事業 農業農村活性化農業構造改善
- ▶工期 1993年7月12日～12月30日
- ▶構造 鉄骨 1部2階建 727.42㎡

問 沼田町の基幹産業である農業を取り巻く環境や国の政策、技術などが常に変化し、農業者への総合的なサポートが必要です。そこで農業の情報を一元で管理し、そこへ農業者が行けば栽培から経営など全ての指導が受けられる総合センターを新築するべきです。

たとえば、「むかわ町農業センター」は農地の移動と、あつせんを行い、耕作

不要地の対策にもなっているなど、一カ所で農業の全ての用事を済ますことができる。ここへ議会で視察に行ったが、「なぜ沼田町は気が付かなかつたのか?」と思うほど良い勉強になった。



上野 敏夫 議員

問 農業総合センターを新築しては

答 必要なので、関係者と協議する



その議会の報告を受けて、役場の職員も同様の事例の町へ視察に行き、どういう形がい

たとい、この秋以降は、北いぶき農協、農業委員会などの関係者と意見交換を行う。

沼田町の農業をさらに発展させるために、この施策は必要だと認識している。

現在は大卒に入学して「おめでとう」と言った途端に、国立では百七十四万円、私立で約二百万円かかる。うちよ銀行の奨学金では全然足りない。国の育英資金のほかに町で手厚くしてほしい。お金で子供の夢が絶たれる町にしてほしくない。

さらに沼田町は日本初めて、授業料や教科書を町が負担してはどうか。

問 サポート」制度を行うなど、沼田町の子供に学習意欲を持たせ、レベルを上げることに熱心に取り組まれている。

それならば、一歩進めて大学へ進学する時の奨学金を、親の所得に関係なく、借りたい子供の全員に貸してはどうか。

問 教育委員会は「学習サポート」制度を行う

上野 敏夫 議員

問 全てのの子供に奨学金を出しては

答 必要性は認識するが財政が課題

教育長への一般質問



努力の向こうに、未来がある!

沼中は、高卒後も進学を希望する生徒が多い

生活教育長 全員にお金を貸すのは、無審査かつ無利子になる。現在は大学の奨学金の枠は二つで、月三万円を貸しているが、全学費を貸すなら一人増えるごとに一千万円が必要になる。

必要性は認識するので、どこまでできるか検討する。

今回の定例議会の傍聴者は、13名でした。

みなさまの傍聴を待っています。お気軽に、いらして下さい♪

傍聴席の生の声

議員の迫力ある質問もあって、期待が持てました。



傍聴席の生の声

議会への傍聴は、町民として当然です。仕事の合間を見ながら、少しの時間だけでも、なるべく来るようにしています。

北空知議会議長 連絡協議会中央要望

8月7日～8月9日



小平忠正代議士(現大臣)との懇談

当町の議会から津川副議長が団長として、また、鶴野議員が団員として、深川市、妹背牛町、秩父別町、北竜町から総勢十名で中央要望活動を行ってまいりました。

要望の内容は

- ①「農業・農村の整備事業の予算確保」
- ②「TPP協定交渉参加反対」
- ③「地域医療体制の充実」

で我々地域経済が抱える問題を提出しました。小平忠正議員に要望書の提出後、国政報告をうけました。



中野博子農水大臣政務官との懇談

その中で、野田総理は増税で名は残るが民主党を無くした人物ともいわれるかもしれない。次期選挙の厳しさを感じさせていました。この後、稲津・徳永・伊達・長谷川・紙の各議員に要望書を提出しました。

この他、総務省、農水省との意見交換を行い、地方での医師不足、区画整備事業の予算確保などについて議論しました。

議員セミナー

十月十七日



施設の説明を受けています



3月の完成が待たれます

北竜町にて有害鳥獣駆除対策のシカの防護柵の導入・設置について施工業者の説明を頂き、その後現地設置状況の視察を行いました。

一キロメートルあたり十六万円で地元負担が六割程だそうです。



ソーラー及び操作板の説明を受けています

歌志内市にて中・北空知廃棄物処理施設の視察をしました。三区組合の可燃ゴミが処理されます。現在工事は九十パーセント進んでいるそうです。

来年四月から沼田のゴミもここで処理されます。

まちづくり調査特別委員会

8月29日～8月30日

羅臼町 弟子屈町 病院の取組を視察

病院から診療所へ

羅臼町役場に於いて、病院から診療所に転換した経緯について説明を頂きました。

平成十九年に医師不足、看護師の退職、不採算部門による経営悪化が深刻化、この時、看護師不足で救急の停止や入院病棟の休止となりました。

不良債務が六億五千万に達し、平成二十年に四十八床の病院から十九床の診療所に転換するも状況は改善せず多額の繰入金は継続されたが、議員定数の削減、報酬の減額、職員給料の十パーセント減額等で、平成二十一年度で不良債務を解消した。

診療所の在り方の検討において、町民検討会議、経営診断、職員プロジェクト、議会特別委員会等数多く開催していく中、民間の医療法人と指定管理者制度導入について具体的な検討が始まり、平成二十四年七月に孝仁会による診療所が運用開始された。



羅臼町国民健康保険診療所

平成二十四年十月完成予定で総事業費十億円、鉄筋コンクリート地上三階、地下一階で病床数は十四床、他に透析用で三床（現在準備中）診療科目は、内科・外科・小児科としているが、専門外来で脳神経外科・循環器内科・整形外科・皮膚科・消化器科・婦人科の診療も月一回おこなっています。

平成二十四年七月より指定管理者による二十四時間救急受入も再開している。

老人ホームと病院が合体

弟子屈町では昭和十九年より地域医療を担っていた「国立弟子屈病院」が厚生省の国立病院再編計画で経営移譲の対象になり平成八年、移譲を前提に検討したが条件が合わず、平成十一年J-A厚生連に管理委託の要請をし、翌十二年九月厚生連理事会で新病院の開設が決議された。

平成十五年三月「摩周厚生病院」として開院された。

総事業費約三十六億円で鉄筋コンクリート二階建、一般病棟五十五床、療養型四十四床、診療科目は内科、外科、整形外科、小児科で、MRIや人口透析装置を備えています。

一時救急医療の二十四時間対応と共に、町立の特養ホームが厚生連へ移譲となり、これは全国初の事だそうです。

温泉を使ったりハビリ施設もあり、とても施設、設備充実した病院でした。



大空町議会 広報委員会が来町

八月二十二日

大空町広報編集特別委員会の松田委員長以下五名の皆さまが来町し沼田町議会広報の研修をされました。

大空町議会会報は事務局が主体となつての編集ですが、沼田の議会広報は議員が自ら編集している取り組みについて熱心に研修されました。



議会広報研修会

八月二十三日

北海道町村議会議長会による議会広報研修会が札幌で行われ、広報特別委員四名で参加しました。

講師にジェイクリエイトの城市創氏により、「親しまれる議会広報づくり」について講演を受けました。発行の意義は、◎住民の関心・意識の高まりにこたえる ◎より住民に近い議

会を実現する ◎議会の幅広い活動を理解してもらう、そのために「報告」より「議論」を重視したり、より住民の立場に立つて編集する事の必要性和、編集の「原点」はあくまでも住民に伝えたいことは何か、知りたことは何か、どう読み感じるかをつねに考え作業を進めることが必要であるなど、実際の広報誌を例示しながらの講演を受けました。

あとがき

最近、驚いた事の一つに「国語に関する世論調査」で事実上の誤用の割合が本来の使い方を上回った事があります。

「にやける」を本来の「なよなよ」として「という意味で使っている人十五%だったのに対し、「薄笑いを浮かべている」と答えた人は七十七%、「うがった見方をする」を本来の「物事の本質を捉える」が二六%「疑って掛かる」が四八%と誤用が市民権を得ています。

正しい日本語かどうかより、周囲と衝突しない言葉を選ぶことを重視しているようです。多数派に支持されない言葉の使い方はやがて消えていきます。

でもある言葉の使い方どうしても「許せない」場合、たとえ少数派になろうともその使い方を拒否する権利は誰にでもあると思います。

広報特別委員

中村保夫 長原 誠
鶴野範之 久保元宏

みんなの広場

一歩前に

沼田町農業委員会 会長 山岡 禎弘



「沼田町といえば」と言われて何を思い浮かべるでしょうか。夜高あんどん・ライスファクトリー・幌新温泉などこれらは町民が知恵を出し合って作り上げてきたものです。かつて炭鉱の町として人口も多く、人が人を呼ぶ時代がありました。しかし産業構造の変化とともに次第に人口が減った時々で「今のままではいけない」という危機感から新しいものが生まれてきました。これからも前向きに考える姿勢は沼田町の伝統として引き継がれるものだろうと思います。

よく「沼田の基幹産業は農業です」といわれます。現在人口約3500人の小さな町に184戸の農家が営農していますが、田んぼや畑の作付面積はほとんど変わっていません。沼田町はスムーズな形で農地をバトタッチしながら現在の農地を守ってきました。

その結果、水田の一戸あたりの経営面積は北海道で一番といわれています。今の沼田の農業は農家だけでなく各関係機関はもちろんですが、沼田町のみんなで作りに上げてきたものであることは間違いありません。

ただ決して今の農業の形はベストであるとは言いません。農業だけでなく高齢化、担い手不足、人口の減少と取り巻く環境は田舎の小さな町村は何処も同じ問題を抱えています。今一度沼田らしさを発揮しなければなりません。

意欲を持って農業を考えてくれる新しい農業人が沼田で働いています。魅力ある町民がいれば新しい町民も増えてくる。新しいものを作り上げてきた沼田町は新しい人を招くことができる町としてまた一歩前へ進むことが出来れば良いと思います。